



## Amir Tsarfati

2021年6月17日「あなたのアイコンは誰ですか？」

— 私たちのアイコンとして神が与えてくださったイエスを模倣する —

私は、長年、世界中で非常に多くの人が、神がお造りになった自分に満足していないのを見て来ました。そして、彼らは常に何か他のものになろうとします。時には他の誰かのように。

ある人の事を思い出します。彼が美容整形にどれほど投資したか分かりませんが、彼はバービーの仲間のケンようになりたかったのです。面白くないですか？ところで、後になって、その同じ人はケンでは満足出来ず、バービーになったのです！このように、人が自分に満足していない時、その欲求は限りなく続きます。なぜなら彼らは、神が彼らを何に似せて創造されたかを全く分かっていないからです。

私達は今、テルアビブの中心にある最も象徴的な場所の一つにいます。イスラエル文化生活の首都、見事なパフォーマンスを見るために、全国から人がこの場所を訪れます。面白い事に、度々、私達は歌手の歌を聞けば、その人のようにになりたいと思います。私達は歌手のように歌い、役者のように演じ、彼らのようにになりたいと願います。これらの人々は、しばしば私達にとっての象徴（アイコン）となります。そこで、私はそれについて考えていました。「アイコンとは何だろう」辞書を見ると、アイコンが3つの異なるカテゴリに関連していることがわかります。人、スマートフォン、特定の絵画。非常に興味深い事に、それが人に向く時、それは、有名人が一連の信念や生き方を示す人物として社会で使われている人です。しかし、スマートフォンやコンピュータに関しては、それは、デバイスの画面上にある、小さなイラストやシンボルで、それをクリックするとデバイスが何かを行います。何であれ、アイコンは何かを刺激し、そしてアイコンは、あなたに何かを考えさせ、何かをさせ、何かに反応させます。



人は多くの場合、自分自身に満足していません。そこで疑問は、「人は他の人を模倣する必要があるのか？」何年も前に、私はイスラエル軍の将校アカデミーを卒業しました。今でも覚えています、イスラエル南部の砂漠の真真中で孤立した基地に到着したとき、そこには立ち入り禁止の中庭がありました。その中庭は卒業式の為にだけあって、そこに入りたければ、卒業しなければなりません。しかしその中庭で一つ、私が目を奪われたのは、実に士師記7章の一節でした。その節は、ヘブライ語でこのように書かれています。

זו ויאמר אליהם ממני תראו וכן תעשו והנה אנכי בא בקצה המחנה והיה כאשר אעשה כן תעשו

「私を見て、あなたがたも同じようにしなければならない。」(士師記7:17)

言い換えれば、聖書の中に、実際に私達に対するアドバイスがあるのです。戒めではなく、アドバイスです。「他の人を見て同様に言いなさい。」ところで、このギデオンの話では、彼が、少ない残りの彼の兵士達に言いました。「我々がミデヤン人に勝利する方法を、しっかり見届けなさい」

「ギデオンはこの夢の話とその解釈を聞いたとき、主を礼拝した。そして、イスラエルの陣営に戻って言った。『立て。主はミデヤン人の陣営をあなたがたの手に下された。』そして、彼は三百人を三隊に分け、全員の手角笛とからつぼを持たせ、そのつぼの中にたいまつを入れさせた。それから、彼らに言った。

『私を見て、あなたがたも同じようにしなければならない。見よ。私が陣営の端に着いたら、私がするように、あなたがたもそうしなければならない。』」（士師記7:15-17）

ギデオンは、彼らに「私のキャラクターを見なさい！」とか、「私を見なさい。立派だろう？」とは言っていません。彼はただ、こう言いました。「この戦いに勝ちたいなら、あなた方は私の言うことを聞きなさい。そして、あなた方は私がする通りにしなさい」それが、イスラエル軍司令官の本質です。彼らは常に前を行き、そして彼らの兵士達が彼らと同様に行う事を期待します。

私は父親なしで育ち、人生の中で手本となる人がいませんでした。そして、将校アカデミーに入った時、初めて私は手本となる人の必要を感じ、また、誰かを見て同様にやりたいと思いました。しかし、私達はまた、聖書の中で、どのような人と一緒におらず、人の何を真似てはならないかが告げられています。  
第3ヨハネ1:11

「愛する者よ。悪を見ならわないで、善を見ならいなさい。善を行う者は神から出た者であり、悪を行う者は神を見たことのない者です。」（第3ヨハネ1:11）

一つ、私達が学ぶべき重要なことは、霊的な模範に従うことです。この世、この世の中のものではありません。何か他のものや、他の誰かのようになるろうとする人間のばかげた試みには終わりがありませんから。そして、私が思うにそれは、唯一自分達が真似なければならない方を、彼らが見逃しているからでしょう。

さて、神の御心は何でしょう？ここまで私達は、何かや誰かのようになりたいと願う人間の意志を見て来ましたが、では神の御心は何でしょう？ 聖書は、ローマ書8:28-29で次のように述べています。

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私達は知っています。なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、（何ですか？）”御子のかたちと同じ姿に”あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」（ローマ書8:28-29）

わお…今、私達は神が何を望んでおられるかが分かりました。神を愛する人々、神のご計画に従って召された人々のためには、「神は、あらかじめ知っておられる」というのはつまり、主が呼ばれ、ある時点で、彼らがそれに応える事を、主はご存知だったのです。主は、すべてをご存知で、私達がまだやっていないことを知っておられます。それらの人々が、御子のかたちと同じ姿になる事を主は望んでおられます。ギリシャ語で「姿」は「エイコノス」または「アイコン」。

皆さんにおうかがいします。「私達は、本当に物理的に神の姿になれるのか？」  
聖書はイザヤ40章で、次のように述べています。

「あなたがたは、神をだれになぞらえ、神をどんな似姿に似せようとするのか。」（イザヤ40:18）

神は御霊なので、誰も神と比較することはできません。主は青い目、金髪ではありません。これらは、何かを描こうとした時の芸術的憶測にすぎません。しかし、神は霊であって、私達は物理的に神の似姿になることはできません。非常に興味深い事に、罪が世に入る前、アダムは、実際に神の似姿に創造され、そして、実際、彼には、いくつかの神の属性がありました。第一ペテロ1章で、使徒は次のように書いています。

「それは、『わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない』と書いてあるからです。」  
(第一ペテロ1:16)

言い換えれば、聖になるために、私達は神の神聖さを見なければなりません。そして、神が聖であられるから、私達も聖でなければなりません。それはまさに罪が世に入ったときに、私達が失ったものです。罪は神

の姿を打ち砕き、アダムが持っていた永遠の命を打ち砕きました。ご存知でしたか？ アダムは死ぬようには創られていませんでした。神は決して死ぬためにアダムを創造されたわけではありません。神は、実際アダムに、彼の死につながる何かをしないように警告されました。つまり、神は彼に生きて欲しかったのです。彼らが罪を犯した後、裸だったのは、罪が世に入ったからでしょうか？ 彼らを裸にしたのは正確には何だったのでしょうか？ ご存知のように、創世記3章は次のように述べています。

**「このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」(創世記3:7)**

人間を覆っていた霊的な栄光を奪う何かが起こり、そして今、物理的な肉欲の本質の中で、彼らは裸だった。そして、彼らは自分自身を覆う方法を見つけなければなりません。恥が入り、罪悪感が入り、彼らは隠れ、彼らは覆っていました。霊的な視野は失われ、肉欲が残された。その為、ローマ書3:23は告げているのです。

**「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず…」(ローマ3:23)**

イザヤ59:2は言います。

**「あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」(イザヤ59:2)**

分離… 今、神が私達から隠れておられます。彼は私達から御顔を隠しておられます。主は私達の声さえ聞いて下さらない。なぜか。墮落、不信、罪深さがあるからです。それは聖であられる神の反対です。さて、以前のように神を見る人間の能力を回復するために、神は御子を送られました。ヨハネ1:14は言います。

**「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。」(ヨハネ1:14)**

初めて、人間は神を見る事が出来るようになり、私達はこの方の栄光を見たのです。

**「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」(ヨハネ1:14)**

思い出してください。罪が入る前、アダムとエバは庭を歩く事が出来ていて、そして神も歩いておられ、そこにはフェローシップがありました。神と神の創造物の最高傑作との、非常に美しい交わりでした。だから、人が神との一致を回復するために、人は神を見る必要があったのです。恵みとまことに満ちた方を。コロサイ人への手紙1:15

**「御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。」**

**(コロサイ1:15)**

人の、神との交わりを取り戻すために、人が神を見れるようになるために、主は何かをする必要がありました。非常にシンプルでありながら、なおかつ非常に重要で、何よりも極めて重大な事を。罪の清め、これが最初に必要なステップでした。その為、聖書はヘブライ人への手紙1:3-4で告げています。

**「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使よりもまさるものとなりました。」(ヘブライ人への手紙1:3-4)**

イエスが御父の右に座されたのは、唯一、主が最も重要な事を成し遂げられた後でした。主は、その為にこの世に来られたのです。私達の罪の清め。罪の清めは、主の一つの行為、つまり、彼の贖いの死を通してのみ可能でした。イエスの人生は驚くべきものでした。しかし、イエスの死は必要でした。そして復活は、明らかに、この死が人間の死ではなく、神自身の死である事を示す為に必要でした。イエスは言われました。（ヨハネ10:18参照）「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしはそれを捨て、それを取り戻します。」そして、主は、それをされました。神だけが、命を与え、命を奪うことができます。ヘブライ人への手紙2:9-11

**「ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見えています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、”すべての人のため”に味わわれたものです。（ご自分のためではありません）神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの痛みを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであったのです。聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としない…」（ヘブライ2:9-11）**

第二コリント4:3-6は言います。

**「それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々の場合に、おおいが掛かっているのです。その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」（第二コリント4:3-4）**

イエスはアイコン、神の”かたち”です。主こそが私達が努力してそのようになり、そのように振る舞い、そのように話し、そしてそのように奉仕しなければならない方です。あの方、キリストの栄光にかかわる福音の光…

**「私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。『光が、やみの中から輝き出よ』と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」（第二コリント4:5-6）**

あなたが主を見ると、あなたは神の栄光の光を見ます。神がこの世を創造された時に神が与えられたのと同じ光。弟子たちがイエスを見たとき、彼らは何を見たかを私達が理解するのは難しいです。光、権威、彼についてのすべて。ですから私達は、神の御言葉を通してしか変わる事が出来ません。彼が御言葉であり、唯一、神の御言葉を通してのみです。今、イエスは御父の右に座しておられ、私達には神の御言葉と聖霊が残されました。私達を変えるには、それで十分です。聖書はヘブライ人への手紙4:12で述べています。

**「神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやばかりごとを判別することができます。」（ヘブル4:12）**

あなたが信者になり、神の御言葉が目前にあって、そして聖霊があなたの中にあると、突然、あなたは、あなたの人生から切り離すべきことがたくさんあることを理解します。それには痛みがあります。それは剣、さらに鋭い剣です。私達は、唯一、聖霊を通してのみ変わることが可能です。目の前に神の御言葉が無いだけでなく、私達が神を信じて初めて私達に与えられる聖霊がなければ、それはうまくいきません。聖書は、第二コリント3:18で述べています。

**「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。」（第二コリント3:18）**

神の御言葉を通して、神の栄光を見ることができます。では、もし私達が真似し、同じように話し振舞うよう努力すべき方がイエスなら、そして、もし彼が私達のアイコンであるなら、私達の人生の中には本当に主がいなければなりません。今日でさえ、私達は、主のようになれるのでしょうか？ 主は私達の周りにはおられず、私の隣に座っておられません。物理的に私は主に触れることができず、私は主を見ることができません。弟子たちにはそれが可能でした。きっと彼らは、それがどれほど尊いものであったかを当時の自分達が理解していれば、封建的なことで貴重な会話を無駄にする事もなかった、と悔やんだのではないのでしょうか。では、今日の私達は、どうすればイエスのようになれるのか。まず、「イエスのかたちと同じ姿になる」という話題は、非常に広大でとてつもない話です。しかし私は、それを今日でも私達の生活に適用できる8つのポイントにまとめました。



第一のポイントは、もし、私達が主と主の御言葉を知っていれば、私達はいかにして主が持っておられた知恵と権威を持って、実際に神の御言葉を教えることが出来るか。マタイ7章

**「イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。というのは、イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。」(マタイ7:28-29)**

イエスは、なぜ権威を持っておられたのか？ なぜなら、彼が神のことばだったからです。主がそれを教えられた時、こんなことは言うておられません。「私の解釈、私の気持ち、私の考えをあなたに教えてあげましょう」いいえ！神のみことばは、神の権威を持って教える事が可能です。彼が神のことばですから。何であれ、イエスが旧約聖書について語られた事は、旧約聖書が本当に意図していた事です。彼こそが神のことばですから。ですから、彼のおっしゃったことを見て、旧約聖書を読み返すと、私達は今、それが正確に意味する事が、もっとよく理解出来ます。人となられた”ことば”が言っていることに照らし合わせるのです。

第二に、私達が今日でもできる事は、神の家に対する熱意です。私達の教会、私達の集会、どこであろうと、神の御言葉に沿った教え、すべてを聖く保つ熱意です。多くの教会のように世を見失ったり、世に同調しないように。ヨハネ2:13には、次のように書かれています。

**「ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり、細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、また、鳩を売る者に言われた。『それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。』弟子たちは、『あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす』と書いてあるのを思い起こした。」(ヨハネ2:13-17)**

これは、詩篇69章です。

**「私は自分の兄弟からは、のけ者にされ、私の母の子らにはよそ者となりました。それは、あなたの家を思う熱心が私を食い尽くし…」(詩篇69:8-9)**

私達は、このようであればなりません。私達は、私達自身の集会が商売の家になることを許してはなりません。私は世界中の非常に多くの教会で、それを見てきました。お金がすべて、物売る事が全て。とても残念な事に、彼らは神を信頼するよりも、お金を儲けることに多くの力を注ぎます。なぜなら、彼らは神の御言葉を教えもせず、神の模範にも従っていないからです。

第三は、群れへの心遣いです。私達は理解しなければなりません。私達の周りには、私達を必要とする人がいます。ヨハネ10章にはこうあります。

**「それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは（何の為？）羊のためにわたしのいのちを捨てます。」（ヨハネ10:15）**

イエスは羊の事を思っておられ、彼は周りの人の事を思っておられ、彼は神が御手にお与えになった人々の事を思っておられました。その人達の為に喜んで命を捧げる程に。私には自分にそんな事が言える自信がありません。私の集会でも、皆さんの周りでも、こんな風に言える人は誰もいないと思います。「ああ、あの人の為に死んでも構わないよ。」そう言えれば良いですが。

第四のポイントは、奉仕されるのではなく、奉仕する。これはリーダーにとって非常に難しいことです。なぜなら、ほら、多くの人が私達に敬意を示して私達に仕えたいと言ってくれます。それに慣れるのは簡単です。聖書はマルコ10章で、こう告げています。

**「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」（マルコ10:45）**

わお…人の子、神の御子、肉体をまとった神、神のことは、私達が仕えるべき方が、仕えられる為ではなく、仕える為に来られました。私達は、そこから学ぶべきかも知れません。そう思いませんか？

第五は、優しさ<sup>たびたび</sup>と謙虚さです。キリスト教徒が度々苦勞するもう一つの点です。マタイ11章は言います。

**「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。…あなたがたもわたしのくびき<sup>たびたび</sup>を負って、わたしから学びなさい。…」（マタイ11:28-29）**

イエスはおっしゃいます。

**「わたしから学びなさい。わたしは、あなたの前にいます。わたしは心優しく、へりくだっているから…そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」**  
**（マタイ11:29-30）**

私は考えています。私達は、自分の力で物事を行おうとしたり、主に重荷を渡さず、自分で背負おうとしたりして、どれくらい自分の生活を惨めにしているでしょう。主はおっしゃいました。

**「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイ11:28）**

それは交換のようなものです。「わたしのくびき<sup>たびたび</sup>を負って、わたしから学びなさい。わたしが、あなたの重荷を受け取ります。これがわたしの役目、あなたのくびき<sup>たびたび</sup>を負う為にわたしは来たのです。そして今わたしは、あなたに、わたしのものを与えよう。わたしのものは負いやすく軽いから。なぜなら、わたしは心優しく、へりくだっているから。」言い換えれば、彼は言われます。「見なさい。わたしは、実に、しもべとして、貧しい者、低い者としてやって来ました。祭司の家系からでも何でもありません。わたしは飼葉桶の中で生まれ、わたしは心優しく、へりくだっています。あなたは、わたしのところに来れば、あなたは魂の休息を得ます。」

**「わたしのくびき<sup>たびたび</sup>は負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」（マタイ11:30）**

ですから私達も同様に、他の人に近づく時は、少なくとも優しく、へりくだるべきです。その人達も、私達の中に重荷ではなく、休息を見出せるように。非常に多くの人々が、あまりにも個性が強く、あまりにもプライドが高く、傲慢で、彼らに話しかけると実際に不安になります。まるで内側でプレッシャーが大きくな

るような。私達は、そんな風になる必要はありません。

第六は、神の御心に完全に従う。私達は神の御心を知っています。神が、その御言葉の中に、主の御心を書いておられますから。ピリピ人への手紙2章

**「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、そのすべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、『イエス・キリストは主である』と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」** (ピリピ2:5-11)

主は来られ、神のご計画を果たされました。彼はこんな事はおっしゃいませんでした。「ええ！私はあなたの息子ですよ。私は天に居なければならぬので、他の人を送ってください」いいえ！違います。聖書は、告げています。

**「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず…」** (ピリピ2:6)

実際に、主ご自身がご自分を無にされたのです。主は自ら仕える者の姿をとられたのです。どうですか？ただ、神のご計画を果たす為に。主は、それが必要であることをご存知だったのです。ルカ22章で主はおっしゃいました。

**「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」** (ルカ22:42)

肉体をまとしてイエスは… もちろん、誰も死にたくありません。十字架上の死など、なおさらです。しかし、主は計画があることをご存知で、それが行われなくてはならない事をご存知でした。そして、主はご存知でした。人間の意志ではなく、神の御心が実行されなければならない事を。

第七、神の御心を果たす決意。イザヤ50:5-7

**「神である主は、私の耳を開かれた。私は逆らわず、うしろに退きもせず、打つ者に私の背中をまかせ、ひげを抜く者に私の頬をまかせ、侮辱されても、つばきをかけられても、私の顔を隠さなかった。しかし、神である主は、私を助ける。それゆえ、私は、侮辱されなかった。それゆえ、私は顔を火打石のようにし、恥を見てはならないと知った。」** (イザヤ50:5-7)

なんという決意でしょうか。「私の顔を火打石のようにした」私は自分がどこに行くか知っており、私は準備ができていた。私は決心している。これらの苦しみの全てが、私を引き止める事はない。

第八は、自分達が始めたことをやり遂げる誠実さ。非常に多くのキリスト教徒が良いスタートを切りませぬ。私達の多くが、救われたとき、素晴らしい経験をしました。私達は「うわ、私達はこれができる、あれができる」と考え、何かを始めますが、人生の嵐や嵐が襲うと、私達は、自分達が始めたことを忘れがちで、やり遂げない傾向があります。ヨハネ4章

**「イエスは彼らに言われた。『わたしを遣わした方のみこころを行い、（行うだけではありません）そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です。』」** (ヨハネ4:34)

途中で止めないで。途中の3分の1で止めてはいけません。途中の90%でも止めてはいけません。主のみわざを成し遂げるのです。ピリピ人への手紙1:6

**「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」 (ピリピ1:6)**

神は始めた事を必ず完成なさいます。それが神ですから。十字架の上でイエスはおっしゃいました。「完了した」(ヨハネ19:30参照)

これらすべての8点に言及するのは良い事です。しかし正直に認めましょう。私達の多くは、私達が実際に物理的に主のようになる日を楽しみにしています。私達の体が贖われる日。私はローマ8:23が大好きです。

**「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」 (ローマ8:23)**

この体、聖書はそれを幕屋と呼びます。それは卑しく、罪深く、この体は神の国を相続できません。この体は神の御前に行く事も出来ません。罪に満ちています。信者になった途端、新しい思い、新しい心、新しい霊になりますが、しかし体はまだ罪深いままです。第一コリント15章は言います。

**「兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、『死は勝利にのまれた』とするされている、みことばが実現します。」 (第一コリント15:50-54)**

覚えていてください。ピリピ人への手紙3章は告げています。

**「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、…私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。(ピリピ3:20)**

主が死者の中から復活されたとき、すでに栄光の体でした。ですから、私達は主を見上げ、主の御言葉に従って、主の御霊に満たされる所から始めようではありませんか。そして、私達自信の話し方、行動、振る舞いで、主のようになりましょう。そして、その日が来れば、…その日は非常に近いです。私達の肉体でさえ栄光の体に変えられて、主の栄光の体になるのです。あなたのアイコンは誰ですか？神があなたに望んでいる方であるべきです。御子のかたちと同じ姿に。



← スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2021.06.17 (Thu)



